

自ら学ぶ生徒
正しく行動する生徒
健康でたくましい生徒



令和元年12月12日(木)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

自分の想いや願いを伝えていくことの大切さを実感! 第27回富田地区「少年の主張」発表会・表彰式 12/7(土)

12月7日(土)には富田公民館において、第27回富田地区「少年の主張」発表会・表彰式が開催されました。富田小、富田東小、富田中から4名ずつの児童生徒が自分の想いや願いを発表しました。さすが「選ばれし者たち」の内容・発表でした。

1年前林沙里奈さんが『優秀賞』を受賞しました。(前林さんの主張は裏面に掲載しました。)『優良賞』の1年阿部寧々さんは、『誰もが暮らしやすい社会へ』というタイトルで、どう障がい者と向き合っていけばよいのかについての主張でした。支援学校との交流から、障がい者との向き合い方や福祉の仕事の大変さや難しさを実感した阿部さん。「一步踏み出してチャレンジすること」「相手を知る(理解すること)の大切さ、そして、同じ目線で、同じ心で接していくことの大切さを感じ取ることのできた主張でした。同じく『優良賞』の2年千葉桃佳さんは、タイトル『一人ひとりの一歩から』で、ゴミ捨て場のあるおばあさんの他の人のゴミも整理する姿から主張が始まりました。そこを見逃すことなく、しっかりと見た千葉さんは偉いと思います。一人一人の小さな善意ある行動やちょっとした工夫で、きれいな生活環境を保つことができるということ。一人一人の力は小さいかもしれませんが、それらが合わされば大きな力になり得る。そう強く感じました。そして、『優良賞』の3年倉澤舞さん。『心が大人に近づいて』というタイトルで、自分の内面に目を向け、中学校生活の中で周りへの心遣いができたり、積極的に様々な活動にチャレンジしたりする姿がよく表現されていました。人生最初の関門である高校受験を控える中学校生活において、「自分自身を見つめる眼」を養っていくことの重要性がよく分かりました。「心の成長というのは、自分次第でどこまでも広げることのできるブラックホールのようなもの」という言葉が印象的でした。人間には「無限の可能性」があります。自分の可能性に力強くチャレンジして行ってほしいと思います。

8名の小学生の主張も素晴らしく、どれも原稿を読むのではなく、“相手に伝える”という意識を強く感じる発表でした。実物や数字やイラストなどを提示しながらの工夫した発表もありました。応募総数818点の中から選ばれた12作品、聴き応えのある発表でした。そして、聴く側の人間として、自分の想いや願いを伝えることの大切さを実感するとともに、様々なことを考えさせられた、とても有意義な時間となりました。



阿部寧々さん



千葉桃佳さん



倉澤舞さん



テーマは『勇気』…第9回富田地区標語・川柳コンクール表彰!

同日、明るいまちづくり推進委員会の花いっぱいコンクール表彰に併せて、第9回富田地区標語・川柳コンクール表彰も行われました。本校からは、1年小田あいさんが『優秀賞』、3年前田萌未さんが『佳作』を受賞し表彰を受けました。テーマは「勇気」です。たった17の文字ですが、2名の想いが込められています。

その一歩 あなたの未来 変えるかも
小田あい
勇気持て 新たな自分に 出会うため
前田萌未



小田あいさん



前田萌未さん

あいさつの大切さを実感!

あいさつ運動標語コンクール表彰式

「少年の主張」表彰の後、毎年恒例のあいさつ運動標語コンクール表彰式が行われました。この日は入選を果たした佐藤さんと鈴木さんの2名が出席し表彰を受けました。心温まる作品が揃いました。これらが日常の本物のあいさつに繋がっていくことを期待します。



《 優 秀 賞 》

おはようの 一言だけで 君笑顔

※ ○数字は学年

齋藤 葵さん③

《 入 選 》

あいさつは 幸せ分ける プレゼント

大和田美乃里さん①

あいさつで パット笑顔の 花が咲く

佐藤 遼さん①

あいさつは みんなを繋ぐ 道しるべ

遠藤芳純さん②

おはようの 言葉ひとつで ほら笑顔

鈴木理瑚さん②

あいさつで 広がる繋がる 地域の輪

大越奏太君③



前田沙里奈さん

お母さんに心から感謝を

前林沙里奈

私は、家ではとてもマイペースは性格だ。「宿題終わったの?」「間に合うの?」「計画立ててる?」と毎日お母さんに言われる。自分では「ちゃんとやってる」と思っている。けれど、心のどこかで「足りない、間に合わない、進んでいない」と思っている。中学生になって、部活と勉強の両立の難しさを思い知った。そして何より、時間がない。

夏休みの宿題も、しっかりやっていたはず。こんな曖昧なことしか言えない。もっとこうしていれば、ああしていれば、後悔するのはいつも最後。そしてお母さんに「進んでないじゃん。たくさん時間があったのに。もっと集中して。」と言われてしまった。「私だって…部活だって、塾だってあるから…」分かってる、分かってるのに進まない。こんなただの言い訳だ。

夏休み後半、いよいよ残り何日、とカウントダウンが開始した。残った宿題は…と数えると、実力テストの復習、自主学習、感想文の清書、課題作文。これからまたずっと部活なのにも関わらず、私は大きな課題を四つも残してしまった。そのことに対して、お母さんは「中学生になって、部活もあるって分かっているのになんでやらなかったの。あとで苦しむのは自分なんだよ。今の成績なんか、まぐれだって言われるよ。」と何度も何度も言われた。その頃、自分に対して嫌気がさしていた私は、また言い訳をして逃げようとしてしまった。私がどれだけ大変か知らないくせに、夜遅く帰ってきたと思ったら宿題をしないといけなくて、なかなか終わらなかつただけなのに。学校では、家とは違うしっかりと自分がんばっているのに。頭にはお母さんに対しての文句しかなかった。いつからだろう。こんな自分になったのは。言い訳ばかりして、逃げて、弱い自分になったのは。お母さんが言ってくれたことは、私のためになること。お母さんだって、仕事をして家事をこなして、休んでるひまなんかない。私は改めて感謝したいと思った。

人生は、お母さんを求めて泣くところから始まった。全ては覚えていないけれど、お腹が空いたとき、心細いとき、何かを伝えたいとき、まだ言葉を持たない小さなころは、365日お母さんを求めて泣いていたはず。けれど今になっては、成長するにつれて、お母さんを理由に泣くことがなくなる。映画や小説のストーリーに重ねて泣くことはあっても、小さいころのように、だたお母さんという存在を思って泣いたことが最近あるだろうか。自分が大人になって実家を出るとき、結婚するとき、死が近づいてきたとき。別れを強く意識する出来事がなければ、どれだけいつも守られて生きていたのかを知ることは難しい。改めて考える機会が今ここにあってよかった。お母さんの温もりを感じ、素直にお母さんを求めている自分がある。

お母さんに感謝している人は多いけれど、それを口に出せる人は少ないと私は思う。理由はいろいろあるかもしれないけれど、感謝の気持ちを伝えないまま、そのままだったら、きっと後悔する。何か小さなことでも、「ありがとう」は大切な言葉だから。「いつも美味しいごはんをありがとう。」「家事をこなしてくれてありがとう。」「あのとき怒ってくれてありがとう。」… お母さんに心からの感謝をこめて。

「人生は、お母さんを求めて泣くところから始まる」…胸にグッと来ました。お母さんとの関係を通して、自分を見つめ成長していく姿がひしひしと伝わってきます。「母の温もりを感じ、素直に母を求める自分がある」ことに気付けた前林さんはとても素晴らしいと思います。心温まる主張でした。表現力にも素晴らしいものがありました。



表彰式